日本産業技術史学会2017年度第3回理事会議事録(案)

日時：2018年3月31日（土）　14：00～16:30

場所：東京大学文学部日本史学研究室

出席者：堀尾尚志、天野雅敏、石村眞一、鈴木淳、田中一郎、橋本毅彦、廣田義人、麓和善

委任状：藤原惠洋、

欠席：山田大隆

報告その他

1.　本会運営の状況について(財務・会費納入状況等)

廣田理事から資料に基づき、2017年度の収支状況について、昨年度末に刊行した会誌21巻1号の制作費支払いが今年度となったため、ほぼその分だけ支出が収入を上回り、繰越金を50万円余り減らすことになったとの説明があった。

会費納入状況については、会員139名のうち、2017年度まで完納109名、1年未納11名、2～3年滞納12名、4～5年滞納2名、6年以上滞納5名で、完納率は78%で昨年よりやや改善したとの説明があった。

2.　本会運営の状況について(会員の動向等)

堀尾理事より資料に基づいて、4月1日現在、会員数は2017年度名簿刊行以降、新入会2名、退会3名で、137名(うち賛助会員1)との説明があった。

3.　第31回学会賞受賞者の審査結果について

鈴木理事より、学会賞に推薦のあった水田丞『幕末明治初期の洋式産業施設とグラバー商会－19世紀の国際社会における技術移転とイギリス商人を巡る建築史的考察』について、審査委員3名で審査した結果、学会賞に値するとの結論を得たとの報告があった。

4.　2017年優秀論文賞の投票結果について

天野理事より、会誌編集委員による優秀論文賞の投票が実施され、今泉飛鳥「東京における工場汽缶とその製造業者」を優秀論文賞とする投票が投票数の過半数を占めたとの報告があった。関連して、投票権を有する編集委員に査読者や指導教官がいる問題が指摘され、今後の選定方法について石村理事に検討していただくこととした。また、今回は単著論文だけを対象としたが、連名論文を最初から排除する必要はないのではないかとの意見があり、連名論文も対象に含めることとした。

5.　第18期選挙結果について

廣田理事から、資料に基づいて、理事ならびに監事にかかる立候補、推薦について報告があった。選挙管理委員会委員の任命について、理事会での合意がなされていないとの指摘があった。

6.　会誌に関する諸事項について

　田中理事から、資料に基づいて、会誌(冊子版)の制作・販売について、思文閣出版を退職した林秀樹氏に編集業務を委託し、印刷は亜細亜印刷に発注する提案がなされ、あわせて経費節減のための投稿規定の改訂についても提案があった。持ち回り編集委員会で議論して、その結果を総会で報告したいとのことであった。

　石村理事より、会誌(電子版)について、投稿論文の査読状況について説明があった。

7.　九州産業技術史研究会の活動状況

　堀尾理事より、藤原理事から寄せられた九州産業考古学会との合同研究会の活動報告について紹介があった。

8.　2018年度(第34回)年総会について

　堀尾理事より、現在、報告申し込みが4件で少ない応募締め切りを半月延期することとした、との報告があった。

議事案件

1.　会誌(冊子版)編集委員の追加について

田中理事から、編集委員を増員したいとの提案があり、鈴木理事が加わることとなり、これを承認した。

2.　第31回学会賞受賞者審査結果の承認

審査結果について、異議なく、承認した。

3.　2017年優秀論文賞の投票結果に基づく決定

　投票結果に基づいて、今泉論文を優秀論文賞とし、この結果を編集委員に配信し確定することとした。

4.　理事・監事の補欠選挙について

役員選挙に当たって、理事会で選挙管理委員を選任していないとの指摘を受け、株本訓久、梅本良作、森亮資各会員に委嘱することとした、1月の立候補、推薦の結果について、選挙管理委員に追認いただくこととした。また、理事定員16名のところ、8名、監事定員2名のところ、1名の立候補ないし推薦しかないことから、補欠選挙を実施することとした。

5.　2019年度(第35回)年総会の開催場所について

堀尾理事から神戸山手大学の井上尚之会員から年総会の開催について内諾を得ているとの報告があり、神戸山手大学で開催することとした。